

# こんにちは 健保組合です！

事業所訪問

## 「常南通運(株)」の巻



▲岡野社長(右)と佐藤副社長

この企画も数えることはや四回目を迎え、新年号の取材先は柏市に所在する常南通運株式会社となりました。

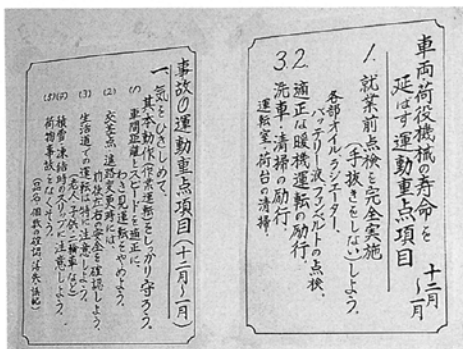
「いざ取材へ！」と師走に入った十二月四日、市川・松戸有料道路を経由し、目指す柏方面へと車を走らせました。幸いにして、春先をほうふうさせるような温かな晴天に恵まれました。

にてしばし懇談することができました。大変ご多忙な社長ですので、「このチャンス逃すものか」とできるだけ多くのお話を聞きたいという欲望に駆られて、対話が始まりました。(私たちに、知らず知らずのうちに記者根性が備わってきたのでしょうか……！)

健康保険組合をとりまく情勢や、高齢化社会の伸展による医療費、特に老人医療費対策の問題、今後の福祉対策問題、労働人口の確保の問題等、様々な視野からのお話を熱心にされるとともに、健康保険組合に対して非常に関心を示してくださいました。

こうしたご理解ご協力のもとに、

### ▼事務所に掲示されている重点項目



昔からこの月は、師も走り回るといふほど大変多忙な時期であるといわれていますが、約束の時間帯を頂戴している都合もあり、早く目的地に到着したい気持ちでいっぱいでした。運送業界の健保組合に従事して

ますと、どうしてもトラックの数ばかり数えて景気の動向などの指標としたがります。バブル経済のスローダウンの影響もあるのかどうか定かではありませんが、平日より車の

当組合も県内総合健康保険組合第二位の被保険者を擁する規模となり、財政的にも順調に推移しており、無事本年十一月で五周年を迎えられたことは、いうまでもありません。岡野社長は全国の地区通運協会会長をされておりますが、お忙しい時間を割いていただいた甲斐があり、私たちは有意義な懇談ができたこと満足しました。

\*

その後、再び応接室に戻り、健康保険組合全般についてや、常南通運の企業についての話題となりました。この席には中山常務のほかに、健康保険組合の検査員をお願いしている佐藤副社長が事務所に戻られていたので、同席していただきました。

健康保険組合の検査員という役割は、健全な運営がなされているかどうかを検査する役割を担っています。佐藤副社長は企業の経営を担っている方らしく、健康保険組合を常に厳しく、冷静に、また、温かい眼で見守っていらつしやいます。「将来の組合の展望を見極めて、よりよい組合づくり」に傾注してほしい」との言葉をいただき、私たちは肝に銘じたところでありませう。事業所と健康保険

数は、全体的にはいささか少なかつたような印象を受けながら、正味一時間半程度で目的地の柏市へ到着しました。

市内の商店街は、第一水曜日を定休日としているところが多く、ちょうど今日がその日に当たり、通りの店舗はシャッターの降りているところ、開いているところが半々だったことも手伝ってか、先の車の量と併せて慌ただしさがさほど感じられませんでした。

しかしながら、人口約三十一万人を擁する柏市の中心をなすJR柏駅の乗降客は、相変わらず混雑そのものでした。事務所は第一商業ビルの八階の一番西側に位置しており、市内で最もにぎやかな所のようなので、八階の事務所までエレベーターで昇り「こんにちは健保組合です！」と事務室のドアを開けました。

ちょうど、午前中の最も仕事の能率が上がる一、二時少し前の時間帯で、大勢の職員が、整然とした事務室で仕事に専念されておりました。

入室すると女子職員が「いらつしやいませ、お待ちしておりました」と笑顔で迎えてくださり、接遇に対する職員教育が、いかにも行き届い

組合の連係を密にしていけることが、ますますの健全運営につながる礎とも思われました。

話題は会社のことに移行し、常南通運では二五、六年前から「常南体操」というものを朝礼時に実施されているそうです。ラジオ体操をアレンジしたものだそうですが、六カ所にある各支店にカセットデッキを設置して行うもので、眠ったからだを起すのにはとても良い効果があるとおっしゃっておられました。

この業界にはつきものの「事故防止」についても力を入れておられます。各所に「事故〇(ゼロ)運動宣言」を掲示して、企業の姿勢を打ち出しておられます。また、定期的に経営協議会が開催され、その具体的な方策が重点項目として周知されています。こうした企業努力が未来にむかって邁進する原動力となっているものだと確信しました。

社員の健康管理については、会議室に血圧計が設置されていることからもうかがえるとおり、行き届いた福利厚生を実施されています。定期的な健康診断に加えて、胃検診も実施、そのフォローとして嘱託医をおもちのこと。企業としていかに人

ている対応であると実感しました。

応接室へと案内されしばらくすると、健康保険組合の健康管理委員会をお願いしている中山常務が穏やかな面持ちで入室されました。さっそく、「日本エアロビクスセンター」で過日実施された健康管理委員会議の話題や、日ごろ、健康保険組合に対して感じておられることなどを、直接、事務担当をされている田島さんを交えての懇談となりました。

要望事項の話になると、事務レベルのかなり具体的な話になり、社会保険に精通しておられる中山常務らしいお話を聞くことができました。氏は、十一月六日の「千葉県社会保険大会」で厚生大臣表彰を受賞されています。長年にわたって功績のあった方が表彰の対象とされるものですが、大臣表彰となると、それはその功績がいかに大であるか、おのずと周知のことです。

この業界には、運送部門だけでなく多岐にわたって尽力されている方が多数おられます。私たちはこの業界をあらためて見直してしまうのでした。

そうこうしているうちに、用務先から帰社された岡野社長と、社長室材を重視されているかがうかがえます。

この地区のリーダー的存在に位置している常南通運ですが、社長をはじめとする役員の方々の過去の苦労ははかり知れないものがあります。こうした過渡期を乗り越えてこられた方々のお話は、長い人生経験と教養を含めて、趣深いものや優しさが、ひしひしと感じられました。最後に貴重な時間を割いていただいたお礼を述べて私たちは取材を終え、常南通運を後にしました。皆さんありがとうございました。帰路につくころには、街並もざわつき出しました。やはり師が走り回っているのでしょうか。